

## 【試料採取方法】

## 1. 詳細把握調査

(水平方向)

- 敷地が広い調査地点は10mメッシュ毎に全25地点で採取することを基本とした。敷地が狭い場所では、その場所の状況に合わせて間隔と地点数を設定した。
- 水平方向の試料採取のうち、5地点は概況把握調査の試料を分析した。採取深度は表層から5cmとした。

(深度方向)

- 概況把握調査で5箇所混合方式により土壌を採取した5箇所の中から、3箇所を基本として深度方向の掘削地点として設定した。
- ボーリングによる掘削深度は、1箇所につき7深度（①表層から-2cm、②表層から-2～-5cm、③表層から-5～-10cm、④表層から-10～-25cm、⑤表層から-25～-50cm、⑥表層から-1m、⑦表層から-2m）で土壌試料を採取した。
- 対象物質毎の分析対象深度は、その物質の土壌浸透特性を考慮して設定した。

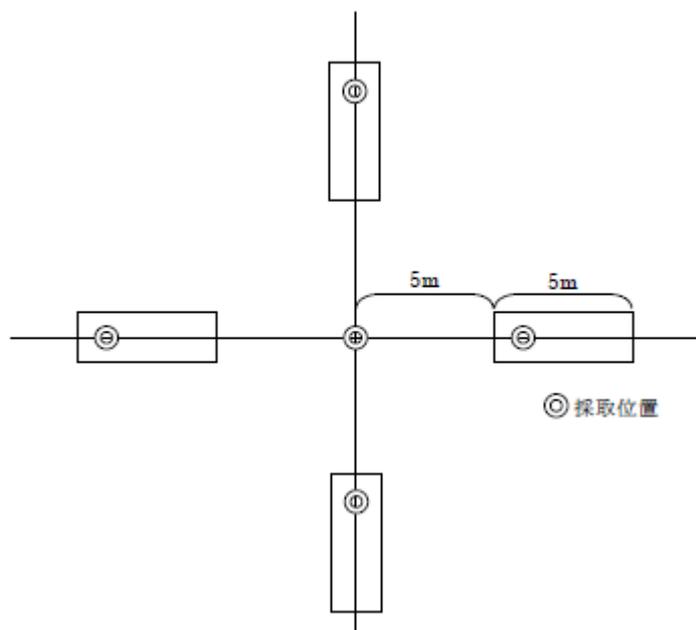
No.	県 政令市	調査地点		対象 物質	深 度						
					表層～-2cm	-2～-5cm	-5～-10cm	-10～-25cm	-25～-50cm	-1m	-2m
1	青森県	八戸市	北沼港湾運動公園	水銀	○	○	○	○	○	△	△
				鉛	○	○	○	○	○	△	△
				砒素	○	○	○	○	○	○	○
				ふっ素	○	○	○	○	○	○	○
2	岩手県	陸前高田市	広田中学校	ふっ素	○	○	○	○	○	○	
3	宮城県	気仙沼市	川口町公園	鉛	○	○	○	○	○	△	△
				砒素	○	○	○	○	○	○	○
4	宮城県	東松島市	東部運動公園	鉛	○	○	○	○	○	△	△
				砒素	○	○	○	○	○	○	○
5	宮城県	名取市	第一臨空公園	鉛	○	○	○	○	○	△	△
6	仙台市	仙台市	赤沼揚水機場	鉛	○	○	○	○	○	△	△
				砒素	○	○	○	○	○	○	○
7	福島県	南相馬市	真野小学校	砒素	○	○	○	○	○	○	○
8	いわき市	いわき市	いわき海星高等学校	鉛	○	○	○	○	○	△	△
				砒素	○	○	○	○	○	○	○

○：採取及び測定

△：土壌は採取するものの、表層から-25～-50cmで基準不適合であった場合のみ測定

## 2. 瓦礫の仮置場における調査

- ・概況把握調査の結果、基準値に適合しているが基準値の1/5を超過する分析項目が確認された地点を調査対象とした（基準が「検出されないこと」である項目については、技術的に可能な範囲で、シアン化合物は0.02mg/L、水銀及びその化合物は0.0001mg/L、アルキル水銀は0.0005mg/L、ポリ塩化ビフェニルは0.0005mg/Lを判断基準とし、その数値を超過する分析項目が確認された地点）。
- ・概況把握調査時に5箇所混合方式で採取した試料を個別に分析した。



5箇所混合方式の参考例

### 【分析方法】

- ・第二種特定有害物質(土壌溶出量)  
「土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件」(平成15年3月6日環境省告示第18号)
- ・第二種特定有害物質(土壌含有量)  
「土壌含有量調査に係る測定方法を定める件」(平成15年3月6日環境省告示第19号)
- ・土懸濁液のpH  
「土懸濁液のpH試験方法」(地盤工学会基準JGS0211)
- ・土懸濁液の電気伝導率  
「土懸濁液の電気伝導率試験方法」(地盤工学会基準JGS0212)